



2018年 新年ご挨拶 2~9

会長 依田 誠
副会長 武田 一平
副会長 立石 文雄
副会長 中本 晃
副会長 小畑 英明
副会長 錦 織 隆
副会長 片岡 宏二
副会長 山岡 祥二



会員企業トップにインタビュー (第11回) 10

第11回目は、(株)フジタイト (宇治市) に藤田稔明社長を訪問。
創業時の思い出や、客先の要望を取り込んだ提案を高品質のカチにするため、「技術力」と「想像力」を大切にして挑戦を続けておられる同社の経営についてお話を伺いました。

◀藤田稔明社長

香川県産業視察 11

海遊館や旭山動物園をはじめ世界中の人気水族館のユニークな形や大型の水槽を手掛けた水槽用大型アクリルパネル設計・製造・施工の日プラ(株)と、建設用クレーンや車両搭載型クレーン・高所作業車等を製造販売する世界最大手級企業(株)タダノのワールドニッチトップ企業2社を訪問しました。

事業活動報告

白鷺クラブ 11

山口県産業視察
鉄道車両製造の聖地といわれる(株)日立製作所笠戸事業所をはじめ、同県の特徴的な優良企業を訪問しました。

経営者向けVEセミナー 12

モノづくりモチベーションアップ講座 12

業務革新研究会 12

京都工業クラブ開催 11

- 「小林製薬の顧客視点によるマーケティング/商品開発」
- 「応仁の乱の歴史的意義—女性観の転換という視点から」
- 「2018年の経済見通し」

予告 京都産学公連携フォーラム 13

創立60周年記念誌発行 13

新入会員ご紹介 13

K I G 13

女性活躍推進企業事例紹介 (第7回) 16

モノづくり企業で活躍する女性管理職と候補者をメンバーとする「女性活躍推進懇話会」会員企業の中から、先進的な取り組みを実践しておられる企業をご紹介します。7回目の今回は、(株)GSユアサの事例をご紹介します。



年 頭 所 感

会長 依田 誠

新年明けましておめでとうございます。皆様には穏やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

「混乱の2017年」が終わり2018年を迎えました。年初から予想されていたこととはいえ、昨年一年間の世界の政治経済は混迷を極め、これまで世界が一丸となって目指していたはずの未来図が、従来とは全く異なる方向へと漂流し始めた感さえあります。無論これはトランプ氏の登場だけが引き起こした現象ではなく、世界全体が、否、地球そのものが人類の描く未来予想図のリセット、あるいは再考を求めた結果のように思えます。

「継ぐのは誰か？」を意識せざるを得ません。人類には本当に地球の支配者としての資格、資質、品格、知恵、識見があるのだろうか。ソビエト連邦の崩壊を経て資本主義の勝利を確信し、民主主義の更なる発展を信じて疑わなかったあの高揚感はや過去のものとなり、他人の不幸は我が身の幸せと言わんばかりの自国至上主義がまかり通り、大量破壊兵器の陰に怯え、地球環境を汚すことを厭わず、格差の拡大を更に助長するような政策を容認する世界へと変貌するのでしょうか。近い将来、カリスマ性を持った狂信的な政治家が現れ、世紀末の到来を声高に唱える宗教家が登場して、世界は過去の悪夢を繰り返すことになるのでしょうか。

2018年は地球の未来を左右する重要な一年となりそうです。

一方、技術革新の進化はますます加速し、現実がSF作家の描いてきた夢の世界に近づいています。特にAI（人工知能）の進歩は予測を遥かに超えるスピードで進み、遠からずアイザック・アシモフが提唱した「ロボット三原則」を制定しなければならない時が来そうです。「ロボット三原則」とは、

第一条 ロボットは人間に危害を加えてはいけない。

また、その危険を看過することによって、人間に危害を及ぼしてはならない。

第二条 ロボットは人間に与えられた命令に服従しなければならない。ただし、与えられた命令が第一条に反する場合はこの限りではない。

第三条 ロボットは第一条および第二条に反する恐れのない限り自己を守らなければならない。

という内容で、ロボットの人類に対する反乱や暴走を防止するための大原則とされています。

こうしたAIやIoTの進化を中心に第四次産業革命が更に進み、われわれの生活を根底から変えてしまうことになりそうです。畢竟、これからのものづくりも従来と異なった視点に立って考える必要があります。即ち、人間が制御するのではなくロボットが制御することを前提とした商品開発が必須となるでしょう。また単一機能だけの商品で生き残るのは難しくなり、複合機能商品が増え、結果として産業界のボーダーレス化が進みそうです。更に、商品開発のスピードを速めるためには自前主義の開発には限界があり、異業種間の技術交流や協働、産学公連携といったオープンイノベーション型の開発が進むことになりそうです。

さて、2018年の干支は戊戌(つちのえ・いぬ)です。戊も戌も土の性質を持ち、季節の変わり目、あるいは分岐点を意味するとされていますが、土と土が二つ重なることからその「気」はより盛んになる、とのこと。政治経済の混乱はカオス化し世界の迷走も続きそうな年になりそうですが、ビジネス面ではさまざまな変化の波に上手く乗ることが出来れば大きな飛躍も期待出来るような年となりそうですね。

結びに、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

(株)ジーエス・ユアサ コーポレーション 相談役



年 頭 所 感

副会長 武田 一平

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

去年は、トランプ大統領の就任に始まり、米国のパリ協定離脱やTPP離脱、NAFTAの見直しなど米国第一主義による大きな変化がありました。また、世界各地で発生する地震や大型ハリケーン等の自然災害による混乱のほか、欧米を中心に世界各地で起きる無差別テロや大量殺人、北朝鮮の核開発／ミサイル開発、スペインカタルーニャ州の独立問題、中東諸国の混乱など、簡単には解決できない問題が世界に様々な混乱をもたらしています。

政治・経済・社会の常識や価値観が変化中、産業界も利便性追求の20世紀型成長モデルから、地球環境やエネルギー問題など社会的課題解決を強く意識した21世紀型成長モデルへ大きく変貌しようとしています。産業構造の変革は「蒸気機関」の発明と機械化による第一次産業革命に始まり、「電気と石油」による大量生産の実現、そして「コンピュータ」の登場による自動化の進展といったこれまでの産業革命に対して、第四次産業革命では自律化が進み、様々なモノがインターネットに繋がり（IoT）、それをAIが制御するようになると言われていきます。

また、自動車産業では100年超続いたエンジンの時代の終わりが見え始めてきました。英・仏政府は2040年までにガソリン車やディーゼル車の販売を禁止すると発表し、中国やインドは環境規制を盾にしてEVによる自動車産業での自国の存在感を高めようとしています。パワートレインの電動化や自動運転等、大きな変革期に直面している自動車産業を代表例として、産業構造や経済・社会の在り方が急速に変化する大変革の波は確実に増幅しています。次々に生み出される新しい技術やアイデアがゲームチェンジを起こし、国や企業の競争力を大きく

左右する時代になっています。変化への対応はもちろんのことですが、今の延長線上に将来がある訳ではないと認識し、「非連続」を意識した企業経営が求められるようになってきていると感じます。

さて、当工業会の多くの会員企業の皆様は、我が国の歴史と文化の中心地である京都で育まれた多種多様な伝統技術をDNAとして、独創的で先端的な事業を起業され発展させてこられました。産業構造や経済・社会の在り方が急速に変化する今、今後とも互いの強みや知恵を活かし、切磋琢磨しながらイノベーションや新たな企業活動の展開に繋がればと願うところです。規模や業種の枠を超え、時代に即応した諸事業を展開し、技術や経営に関する情報や研鑽の場を提供する当工業会の役割は、益々重要になっていると感じます。

なお、当社は電機・電子機器用のアルミ電解コンデンサ、フィルムコンデンサを主軸商品として展開するとともに、家庭におけるエネルギーの地産地消に貢献する家庭用蓄電システムやV2Hシステム、社会インフラとしてのEV用急速充電器や公共・産業用蓄電システム、さらにはスマート医療として普及が進むがん粒子線治療用加速器電源なども商品化し、社会に提供させていただいています。

このような企業活動を展開していく上でも、当工業会の活動方針に沿った産学公の連携や異業種交流をさらに深めていきたいと考えています。引き続き関係各位のご協力とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

京都工業会会員皆様にとって明るく輝かしい一年となりますよう祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

(ニチコン(株) 会長)



イノベーション力に磨きをかけ、生産性向上を

副会長 立石 文雄

新年明けましておめでとうございます。

皆様にとって希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年2017年を振り返りますと、世界中で政治の再編が進みました。1月にドナルド・トランプ氏が米国大統領に就任、5月にエマニュエル・マクロン氏がフランス史上最年少の39歳で大統領に就任、同じ月に韓国では文在寅氏が大統領に就任、9月にドイツのメルケル首相が4期目に突入、10月に中国では習近平氏が率いる新指導部が発足するなど、目まぐるしい変化が起きたことは、記憶に新しいことと思います。保護主義への傾倒と言う見方もありましたが、これは新たなグローバリゼーションが始まっていると捉えることが出来ると思います。第4次産業革命が到来し、ドイツのIndustry4.0、中国の製造2025、日本のSociety5.0などを各国が提唱する中、共通して認識されている最も重要な社会課題の一つは「生産性向上」であり、実は各国が自国の課題解決に取り組む中で、自ずと連携が進み、この共有や展開が新たなグローバリゼーションに繋がると思われます。

日本においては少子高齢化が進む中、経済成長力を確保していくためには、「生産性向上」に加えて、「働き方改革」が重要です。女性や高齢者の更なる活躍のためには、働き方の選択肢も多様にする必要があります。また、機械にはできないが、人間だからこそできる仕事を担う人財、例えば創造的なスキルを駆使し、機械には難しいサービスを提供する人財をしっかりと育成していくことが大切です。生身の人間だから可能な芸術性(演劇、音楽)、身体能力(スポーツ)、思いやり(セラピー)、もてなし(レストラン)などに対する需要を満たすことで、人工知能(AI)やIoTといった新たなテクノロジーに対して、仕事を奪われる恐怖感が払拭され、親和性を高めることができます。ITの発展で、定型的業務は縮小するものの、個々の顧客とのより密接な関係を作ることが可能になり、追加的なサービスを提供する新たな業務も生まれているのです。人とAIなどの新たなテクノロジーの協働により、双方の得手不得手をおぎないながら、更には

人と機械が融和することで「働き方改革」を促進する環境が整備され、それをベースとした「生産性向上」が加速していくことでしょう。

IoT、ビッグデータ、AI、ロボットなど第4次産業革命を牽引する新たなテクノロジーによって生産性を向上させる環境は既にグローバルベースで着実に整いつつあります。この流れを止めずに、更に大きな変化とさせグローバルレベルで全ての産業での生産性の向上に繋げるために、企業はイノベーション力に磨きをかけ、創意工夫でテクノロジーの革新を追求していくことが求められます。また、これにより新しい産業と市場を創出することも我々の大きな役割となります。

さて、誠に残念ながら国内大手企業の「品質」にかかわる不祥事を昨年、耳にする機会が度々ありました。全世界の顧客から日本企業と言うブランドに対する信頼を損なう、由々しき事態だと認識しています。企業経営者としては、対岸の火事と捉えずに自社での同様の問題発生を確実に未然に防ぐ必要があります。徹底した顧客視点と現場起点が重要であることは言うまでもありませんが、激変する厳しい経営環境の中で現場を孤立させない、誤った判断に陥らせないための仕組みとしては、コーポレート・ガバナンスの進化にも期待がますます高まって来ることでしょう。

今年も政治・経済を取り巻く環境は大きな変化を遂げ、それが我々の企業活動に更に大きな影響を与え続けると思われれます。その時、企業はその規模に関わらず「社内の損得」よりも「社会の善悪」を判断の基準として、高い志で持続可能な社会の実現に貢献していこうではありませんか。その上で、変化に対応し、進化し続けるためのイノベーションとそのベースとなるテクノロジーの革新を継続することで、「生産性向上」と「働き方改革」を実現していきましょう。

結びに、新年にあたり「京都工業会」会員企業様の持続的な成長と、皆様のご多幸とご健勝を祈念いたし、ご挨拶とさせていただきます。

(オムロン(株) 会長)



年 頭 所 感

副会長 中本 晃

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、製造業でコンプライアンス違反やデータ改ざんといった不正が次々と発覚、また相撲界でも横綱による暴力問題の発生など何か信頼感が根底から崩れていくようなことが多くありました。その一方では、女子スピードスケートの小平選手、高木美選手の世界一のスケート強国であるオランダの選手を全く寄せ付けない鍛え抜いた圧倒的な強さには、驚嘆しワクワクするとともに、強い信頼感すら覚えます。どの様にしてこういった強さが身に付けられたのかわかりませんが、想像するに、強くなるために、とことん考え工夫して、新しいことにチャレンジして、常人には信じられないような努力により、今の強さが身に付いたのではないかと思います。何はともあれ、常に新しいことにチャレンジするということは、人間の成長にとって、いつの時代にも必要なことだと思います。そして、これは先に挙げた様な不祥事の防止にもつながることではないかと思います。新年を迎えるに当たり、小さなことかもしれませんが、私が「いいな～」と思っている、身近な新しいものにチャレンジした事例と、私自身が仕事に直接関係はないのですが、チャレンジしていることについて述べてみたいと思います。

ひとつは、6年前に3万円超の「高級扇風機の市場」を創出したベンチャーの話。この社長は起業する前は町工場で働き、夏、職人が壁に扇風機の風を当て、跳ね返ってくる風で涼むのを見ていて、起業後に、大手メーカーに勝てる「ありきたりではないモノ」を創ろうと、職人が涼んでいた風が起こせる扇風機を目指し、2枚羽根を組合せた機構を考案。二つの羽根から生まれる自然に近い風がうけて大ヒット。また昨年には、水蒸気でふっくら焼けるという2万円強のトースターをヒットさせ「高級トースター市場」も創出。扇風機・トースターという超成熟商品で新たな市場を創出したのは凄いことだと思います。

もうひとつは、京都工業会創立60周年の記念品にも採用された“泡が出続けるコップ”の話。10年ほど前、たまたま大山崎山荘で、このコップを見かけ、小さなガラス細工の町工場という印象の製造元に行ってみました。“泡が出続ける”秘訣はコップの内面底にサンドブラスト技法で微小な突起部を設けていることにあり、根気強く、いろいろ工夫をして完成させたとのことでした。世の中に一つしかないコップということで、以後、私も何度か利用していますが、最近、NHKで紹介されたということで利用者が増えているそうです。

この二つの事例は、新しいことにチャレンジして、多くの人に、新たな楽しみとか喜びを提供している素晴らしいチャレンジだと思います。

最後に、私が（仕事と関係なく）チャレンジしていることについて。3年半ほど前、たまたまテレビのスイッチを入れたら、バッティングセンターで若い女性が平然と時速150kmの球を打っている場面が出てきて、これは何者？と見てみると「速読のトレーニング」なる仕事をしている人と判明。次にプロ野球の投手が登場し「速読のトレーニングをやるようになってから視野が広がった」という話をしていたのです。結局、一年半ほど経ってから私も速読のレッスンを受けることにしました。その女性講師は「脳開発コンサルタント協会会長」なる肩書もあって「速読は脳のトレーニングの一環で脳を活性化させることが速読につながる」ということでした。1年少々やりましたが、ここで効果のほどを述べるのは止めておきますが、言えることは『幾つになっても新しいことに取組むというのは、年齢に関係なく人生を豊かなものにするような気になった』ということです。

今は、様々なものがデジタル化の方向に進み、産業構造が大きく変わっていく時代になるとと思いますが、そういう時代にあっても、基本は『常に新しいことにチャレンジする』ことだと思います。会員企業の皆様が、常に新しいことにチャレンジされて、2018年が皆様にとって飛躍の年になることを祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

(株島津製作所 会長)



年 頭 所 感

副会長 小畑 英明

会員の皆様、2018年明けましておめでとうございます。
昨年は丁酉（ひのととり）の年でした。酉年は商売繁盛の年だそうで、そのお蔭でしょうか、米国を中心に世界経済が好調、日本もプラス成長を続け、失業率も下がり、企業業績も好調で株価も上がり、京都でもようやく中小企業の景況感が上がってきて、景気の好調さが行き渡り始めて来ました。

今年は戊戌（つちのえいぬ）の年、茂った枝葉を思い切って整理して次の繁栄につなげる年、変化を起こす年だそうです。茂った枝葉を切るのは勇気がいりますが、その勇気こそが大事な年だということです。この原稿を書いているころ、街路樹の葉が次々と切り落とされて幹と太い枝だけになっていきます。こんなに切り落として来年も緑の葉を付けるのだろうか心配になりますが、肝心の小枝と芽は残していますから次の年にはみどり濃い葉を茂らせます。思い切ったツボを心得た剪定が大事なんですね。

足元は商売繁盛で好況とはいえ、少子高齢化が現実の問題になり年金をはじめとする社会保障制度の持続性は大丈夫か、異次元の金融緩和からの出口がどうなるのだろうか、財政赤字の拡大はどうなるのかといった将来への不安が大きくなっています。加えて実態面でも人手不足が深刻化し、成長の天井を作り、日本が誇ってきた高品質にも影を落とし始めています。

経済が好調なうちに将来への不安を払しょくし、現実にかき起している歪を是正する手を打たねばなりません。2018年は戊戌（つちのえいぬ）の年にふさわしい、良いところを伸ばし、その中で問題を解決して将来の安定した繁栄につなげていく、正に贅肉をそぎ落として筋肉を付ける年にしていかねばならないと思います。

こうした中で企業にとって最も深刻な問題は人材不足でしょう。自動化・AI活用を推進し生産性向上を推進するのも人材ですし、合理化した後の創造的な仕事をするのも高度に教育された人材なのでから人材不足は深

刻な問題です。人材が不足する中であっては、初めから必要な能力や素養を備えた人を採用するのは難しい。そうしたらどうするかと云ったら、今いる人材に必要な能力を持った人材に育て直していくしかありません。戦後間もなく、企業は自社内に人材養成所を作って現場を支える人材の育成を進めてきました。そして、そこを巣立った人たちが高度成長を支えるコア人材となりました。今も同じような状況にあるのではないのでしょうか。育成しようとする能力は異なりますが、産業界・企業が自前で人材を育てていくことが必要になっている。自前と云っても国内外の大学・大学院・研究機関との連携が大事なことは言うまでもありませんが。

京都工業会は昭和35年に京都高等工学研修所を創設し、昭和62年には京都高等技術・経営学院を行政や大学と連携して立ち上げ、大学院レベルの教育を会員企業の若手・中堅社員に提供し、企業が必要とする高度な人材の育成に努めてきました。既にその卒業生は1270人になっています。こうした自前の教育を始めた動機の一つが、昭和35年頃の京都大学工学部卒業生400人のうち京都で就職したのがわずか4名だった事と「京都工業会50年の歩み」にあります。何のことは無い、状況は今も昔もほとんど変わっていないのです。こうした問題に正面から取り組まれた先輩経営者皆さんの熱意と行動力に感心しますが、感心してばかりいては駄目。今の課題に 대응するには先輩方が築いてこられた制度に磨きをかけると同時に今のニーズに合った新しい対策を考えていくことが必要です。

京都工業会は創立以来60年間一貫して中小企業と大企業のコラボレーションによる経営の近代化、人材育成、そのことを通じた京都経済の振興に努力してきました。古くて新しい課題に新しい発想で思い切った剪定をしながら取り組んでいく、今年を戊戌（つちのえいぬ）の年にふさわしい年にしていかねばと思います。

（日新電機(株) 会長）



新年あけましておめでとうございます。

副会長 錦織 隆

新しい年を迎え 明るい未来への希望で胸一杯の事とお慶び申し上げます。

速いもので あっという間に もう新年が来た。



Trump





新政権の発足と彼の発言の影響の心配で始まったこの一年。対メキシコ政策により


メキシコ工場  の存続はどうか? とか CO₂削減への消極的 というより 反対的姿勢で


自動車のエンジンのEV化にブレーキがかかるか?


との変な期待?

USでの就労VISA発給制限の今後は?

引き換え中国  では 大都会の先の見えないスモッグ対応と 日本  の自動車の好調な売れ行きに対抗する為もあってか EV化への急転回。

ヨーロッパ各国  もEV化宣言。エンジンのデータ改竄問題のしこり?

海外産業視察で訪問した南アフリカ共和国  では モーターサイクルは盗難の恐れ大のため殆ど売れていない。アフリカはNEXT MARKETの筈なのに . . .

東南アジアではモーターサイクル  は庶民の足と 手軽な運搬手段として好調。

日本国内では 年末近くからの各社のデータ改竄発覚とその対応

身近では北朝鮮によって繰り返されるICBMの発射。間違っ 京都に落下したら大変。

近くには原発もあることだし . . .

命の危険を身近に感じ シェルターでも作る? でも終わってから 地上に出ても 自分一人だったら寂しい事だよな。

なんとも 次から次へと 様々な問題が起こるものだと感心し 憤懣の山々。

これでは 明るい未来どころでは無い。

そこで明るい未来を考えてみよう。

戦争の無い 人類皆友達の世界がやって来た。本来人心の安寧を願う筈の宗教が元で起こる戦いもなくなり 宗教家は本来の教えに従う。当然 人種問題も無い。

核兵器は全廃。原発は超安全な発電システムで保護、又は もっと効率の良い再生可能エネルギーに代わって 核汚染の心配はもう無い。

世界の国々の通貨は統一され 為替問題は発生しなくなった。

病気は i P S細胞の大量安全培養で完全治癒。平均寿命は100歳を超え 皆 元気で長生き。

超長残業、過労死、いじめは無くなり 皆 自分の将来に夢を描いて日々努力。

そうなる為に 製造業として 何を造ろうか? 課題が一杯あって やるべき事も一杯あって楽しみである。

. . . 明るい未来に向かって 進もう!!! . . .

(株)日進製作所 会長



年 頭 所 感

副会長 片岡 宏二

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、新春を健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

新年を迎えるにあたり、まず2017年がどのような年であったか振り返りたいと思います。

まず、注目を集めたのは、将棋界・中学生の藤井聡太四段が史上最多の29連勝を達成、更に史上最年少で50勝に到達し、一躍将棋ブームを巻き起こしました。スポーツ界では、体操のエース内村航平選手に続き白井健三選手、フィギュアスケートでは羽生結弦選手に続き宇野昌磨選手が躍進し、女子では浅田真央さん引退後も宮原知子選手、本田真凜選手といった有望な若手選手が急成長しています。また、野球界ではドラフトでも注目を集めた清宮幸太郎選手が日本ハムでプロデビューを果たす事となりそうです。プロゴルフ界では、松山英樹選手が世界ランキング4位と躍進し、11月のトランプ米大統領来日時には安倍首相と共に霞ヶ関カンツリー倶楽部で一緒にプレーしました。

一方、国際政治の世界では、1月にドナルド・トランプ氏が第45代アメリカ合衆国大統領に就任し、翌日には世界各地で大規模な抗議デモが発生するという波乱の幕開けとなりました。選挙前の公約通り、イスラム系国家の国民に対する入国禁止、TPPからの離脱に続き、パリ協定からの離脱表明と、従来のオバマ大統領の外交政策を真っ向から否定する方針が打ち出されました。

また、北朝鮮の金正恩政権との関係も一気に緊張関係が高まり、相次ぐミサイル発射、核実験に加え、マレーシアでの兄・金正男氏の暗殺と、国際社会への挑発行為が繰り返されました。

隣国の韓国では朴槿恵前大統領の弾劾による罷免に続き、第19代大韓民国大統領に民主党の文在寅氏が就任し、2代続いた保守系政権から革新政権へ約9年ぶりに政権交代となりました。

この様に世界のリーダーが交代していく中、中国では習近平共産党総書記が10月の中国共産党第19回全国代表

大会で盤石の権力基盤固めを行いました。一方、日本でも安倍首相率いる自民党が10月の衆議院選挙にて自公与党で2/3を超える議席を獲得して圧勝しました。

このような政治情勢のなか、世界経済は順調に推移し、IMFは世界経済の成長率は2017年3.6%、2018年は3.7%へ上昇すると予想しています。日本の景気についても、日本総研の見通しでは成長ペースは鈍化するものの緩やかな回復基調は崩れず、2017年度の成長率は1%台の半ばとなる見込みです。

一方株価は、11月には日経平均株価が23,000円台となり、約26年ぶりに高値を更新しました。為替は110円台という輸出企業にとって居心地の良いレートで推移し、追い風となりました。上場企業の2018年3月期業績は3年ぶりの増収、純利益は2年連続で最高益を更新する見込みです。

そのような環境の下、当社の事業に関連する市場は、主力製品であるレーザ事業・二次電池関連事業に加え、新規分野であるロボット事業・ライフサイエンス事業といずれも成長市場です。当社は本年、創業50周年を迎えますが、今後とも継続的に着実な成長を遂げる為には、事業フィールド毎に明確な戦略を立案し、確実に行動・実践していく事が必須であると考えております。

一方で成長の基礎となる人材確保と、人材育成を強化していく必要があります。中でも人材育成は企業成長戦略を達成するために必要不可欠であります。

当社は創業以来50年間変わらない社是・経営基本方針を提唱しています。その社是の1番目にある「誠実な心」を再度周知徹底し、この節目の年に、更なる躍進を目指したいと考えております。

最後になりましたが、会員企業各社様の益々のご発展ならびに皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

(株)片岡製作所 社長)



年 頭 所 感

副会長 山岡 祥二

2018年の年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平素は工業会会員の皆様には格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げますと共に、本年も相変わりがせぬようよろしくお願い申し上げます。

昨今の景気動向に関しては低成長ながらも約5年間に亘って回復基調が続いており、堅調に推移している中であって大手企業の業績もそれに追随し、過去最高の収益或いは増収増益を達成する企業が目立ちました。

株価も昨年年初の19000円台から22000円台へと着実に上昇しており、大手各社の設備投資も引き続き旺盛で、年初計画を上方修正する企業が目立ちました。有効求人倍率も実に40数年ぶりに1.55、東京に至っては2.10という高水準に達しました。

その主な要因としては、安倍政権による様々な景気刺激策もさることながら、自動車関連の好調（安全装備・自動運転装備拡充）に加え、IoTやAIの進展に伴う半導体電子部品業界の活況等々が挙げられます。

一方で景況の回復を実感できないという企業割合は意外と高く、中小零細企業での声は更に高くなります。政府が声高に進める給与ベースアップに関してもまだまだ慎重な企業が多く、従って人々の財布もひもはなお固く、一般消費拡大へと繋がっていかない……そしてその背景には「先が読めない」、「将来への不安」が根底にあると思われる。

また企業規模に関わらず昨今の大きな懸念材料として、人手不足が挙げられます。中でも中小企業における人材確保へのハードルは非常に高く、せつかくのビジネスチャンスをみすみす見過ごさざるを得ないというケースも増えており、新たな経営課題として対応を迫られています。

設備投資に踏み切るにも先読みが難しく、設備償却の増大への不安も付きまといまいます。繁忙期の顧客要求に対

応するためには人手不足を時間外で補うこととなり、過重労働への不安に加えて人件費の上昇が収益を圧迫するという難しい状況におかれています。

この人手不足は納期面での影響に限らず、品質・コスト・サービス等々、様々な領域に影響を及ぼします。その一例が最近、頻発している大手メーカーによるデータ改ざんに端を発した信用失墜問題です。

自動車メーカーでは無資格者による出荷検査が行われ、資格者が検査していたように検査データを改ざんし、また材料メーカーでは要求品質を満たしていないデータが改ざんされていました。

発生に至った要因は色々あるでしょう。長年の人手不足や過剰な要求品質であったり、厳しいコスト要求が起因していたのかもしれませんが。

大企業にあつて、重大な負の情報が即座にトップに伝わるとするのは理想だが、そのハードルは非常に高い。が、その情報のスピード感が重要であると同時に、社の命運を左右する重要問題に直面して、経営者としてタイムリー且つ正しい経営判断を下すことが求められるのは当然である。

よく言われる言葉に「信用を積み上げるには何年もかかるが、失うのはたった1日」……これを再度肝に銘じたいと思う。

企業経営者にとってその内容こそ千差万別だが、常に悩みは尽きない。そのせいか同業者と飲んでいてもどうしても愚痴っぽくなり、前向きな議論は一握りか……でもその一握りに重みがあり、ヒントがある。

今年も冷たいビールを傾けながら、そしてぶつぶつ愚痴りながらも貴重なヒントを得られるように……平成の年号もあと1年余りかと思うと一抹の寂しさを感じますがどうか皆様、引き続きお付き合いのほどよろしくお願い致します。

(株)山岡製作所 会長

■会員企業トップにインタビュー〈11〉

試作開発品から量産までの一貫生産

確かな技術力と豊かな想像力を武器に私たちは挑戦し続けます。

㈱フジタイト プロフィール
精密ダイカスト部品、電子機器の精密部
品、治具、工具、精密金型、機械加工等
資本金：2,000万円 従業員：20名
宇治市槇島町大川原37
Tel.0774-24-0764

(株)フジタイト

社長 藤田 稔明氏

一 会社創業以来の歩み

- 1970年 伏見区にて個人創業
- 1986年 (有)藤田製作所設立
- 1995年 事業拡大に伴い、新社屋建設
- 2000年 藤田製作所 WEBサイトオープン
- 2002年 金型強化のための「金型課」を設立
- 2004年 資本金を2,000万円に増資
社名を「株式会社フジタイト」に改称
新社屋建設・本社機能移転
- 2007年 アルミ鋳造から加工まで行う㈱プロト 設立



▲本社工場全景（宇治市）

一 創業の経緯と現在の事業内容をお聞かせ下さい。

母が家でヤスリがけの内職をしていたのがきっかけで、家族で取り組んだのがそもそのスタートです。その時は機械加工による賃加工が中心で、身を粉にして懸命に働きました。

私自身20代の青年でしたが、銀行と交渉し工作機械を購入することで生産効率を上げ、やがて30坪の工場に移ることができました。その後もNC機械が欲しくて、稼いだ資金をこれらの購入につぎ込み、これが功を奏して時流に応じた様々な仕事に対応できるようになったのです。

2004年に今の本社地を購入したのを機に、社名を「藤田製作所」の「フジ」と「泰山北斗」の「タイト」を合わせて、(株)フジタイトに変えました。偶然にも、創業者である母の名前が「藤田いと」であったので、母は大変喜んでくれましたし、周囲の方々からも「親孝行ですね」と声をかけられ、面映ゆい気持ちになったものです。

また、2007年には友人からアルミ鋳物を生産する事業の立ち上げを依頼され、社長に就任しました。当時としては画期的であった3Dプリンタを導入し、試行錯誤を重ねながら何とか軌道に乗ってきたことから、(株)フジタイトと共に今後成長させていきたいと願っています。

一 自社の「セールスポイント」をお聞かせ下さい。

一言でいえば、多品種少量生産から量産までこなし、他社ができないものを自社でカタチにする、ということです。単なる受注生産にとどまることなく、客先の要望を取り込んだ提案を高品質のカタチにするのが自社の特徴であると思っています。単にモノを造る技術のみならず、「想像力」を大事にしています。

企画提案から始めることによって、より一層効果的なシステム、製品を実現できると考えています。

これらを具体化していくために、苦しい創業時から一貫して培ってきた技術力と厳しい基準をクリアする「品質」へのこだわりがあり、そのソリューションが、導入後のクレーム対応を含めた自社独自の「品質保証システム」にあると確信しています。

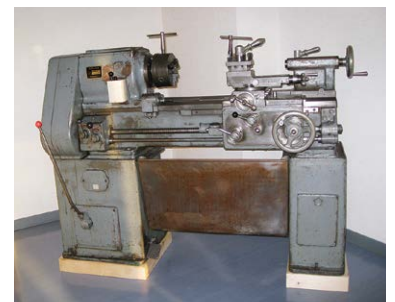
一 業界の現状と今後の方向性について聞かせて下さい。

自社と取り巻く業界の状況はおしなべて良好ではないでしょうか。これに安住することなく「高度化」、上をめざす気持ちが大事だと思っています。

「信用を第一」にして、機械設備への投資を怠ることなく、自分にとって、自社にとって何ができるかを常に念頭においています。

現実的には、現在の姿勢を保ちながら、その中で何かこれといった自社製品を持つということを目指しています。「AI」は少し先かもしれませんが、「IoT」には何とか対応していきたい、そして産学連携にも何らかの関わりを持ちたいと願っています。とにかく常にアンテナを張り巡らせて大小様々な情報をしっかりと掴んでいかねばならないと常々心がけています。

自社の玄関に入ったところに、創業時の頑張った思い出が一杯詰まった古い旋盤を展示しています。若い人には“匠の技”の重要性を認識して、今後大きな力になってほしいと願っています。



▲創業時に使用した旋盤

「経営者向けVEセミナー」を開催

11
14

コスト競争力の強化や特徴ある独自商品の開発、さらに開発リードタイムの短縮などが強く求められ、これらに対応するために、原価企画・VE (Value Engineering) が有効であり、これらを導入する企業が増えてきている。

本セミナーでは、儲かる企業体質を目指して経営革新を実現するために原価企画とVEがいかに有効か、さらに、様々な領域でのVE適用の有効性をテーマに本会・VE (開発・設計革新) 研究会のアドバイザーでもある谷 彰三氏 (バリューアップ研究所 代表) を講師に迎え、11月14日(火)に参加者21名で開催した。

講演では、原価企画の必要性としてコストマネジメント (原価管理) と原価企画の関係性や、VEの有効性の再考として、分析的アプローチとデザインアプローチの違い、VEの進め方について講演をいただいた。

また、様々な領域で活用出来るVEの適用範囲として、各分野 (製品開発、資材、物流、システム開発、サービス業、商社等) でのVE事例を紹介いただき、原価企画とVEの有効性について理解をいただき充実したセミナーを終えた。

モノづくりモチベーションアップ講座 活動報告

11月9日(木)、アプローズ しくみリフォームコンサルタント 田中辰幸氏を講師に迎え、「コミュニケーション術」及び自己成長にも繋がる「目標活用術」について、講義と演習を交えた講座を開催、14名が参加した。

まず、コミュニケーションの取り方にも各個人で好みがあり、**相手の立場にたったコミュニケーションが必要であること**。そして相手を「操縦型」「促進型」「理論型」「共感型」の4つのコミュニケーションタイプに分けることで、**相手は自分とはタイプが違う**という視点に変え、さらに各タイプに合った対応をすることで、相手の受入れ方が変わると解説された。演習では実際に自己を4つのタイプに分類し、違うタイプの相手にどのような伝え方をすると受け入れてもらえやすくなるのかを実践した。

次に、目標活用術について、目標は目的を達成する為の目当てであり、結果を出すための目標の立て方のポイントは「具体性」「現実性」「明確化」であると説明がなされ、実際にポイントに沿って目標を立てる練習をした。正しく目標を立てれば、あとはそれに従って進んでいくだけで目標が達成され、やがてそれらが目的達成に繋がる。達成に至るまでに得た知識・能力・ツールが自己成長という形でついてくるので、組織や周りから与えられた目的を実現する為に正しく目標を立て、自己成長の為のツールとしてうまく活用して欲しいと述べられた。

◆業務革新研究会 活動紹介

本会の数多くの人材育成事業の中でも、「基幹事業の1つである業務革新研究会 (8研究会)」では、10月例会から後期・実務編に突入し、研究会毎に先進的な取り組み事例に学ぶ工場見学や前期・基本編で各アドバイザーから学んだ各種手法を実際の企業事例で実践する現場改善実習を行う等、活発な活動を展開している。以下、主な活動概要を紹介する。

【生産革新研究会：基礎IE部会】(10月4日)

代表的なIE手法である工程分析、動作分析等や標準作業3点セット等を活用し、徹底した現場のムダ排除について、現場改善実習を含めた実践研究を行っている「生産革新研究会：基礎IE部会」では、アドバイザー吉植久正氏 (NPSソリューション 代表) から学んだIE手法を11月例会と12月例会に現場改善実習を行うに当りモデル事例として、オムロン(株)草津事業所 (滋賀県) を訪問し、生産革新活動の取組みを学んだ。

事例紹介では、生産性の取組み、4M変動を極小化に向けた取組みなどの生産革新活動の取組みを拝聴し、工場見学では、ビックデータの活用、機械の新たな協調ライン (混流自動化ライン) としてIE+LCIA (Low Cost Intelligent Automation: 簡易自動化) の事例も見聞した。

前期・基本編 (5月～9月) でアドバイザーから学んだIEの知識を実際に現場で適用している先進の事例を見聞する事により、知見が広がり、11月例会から行う現場改善実習への参考となり充実した会合となった。

【生産革新研究会：JIT改善部会】(11月22日)

トヨタ生産方式の理論や体系の理解とモノと情報の流れを理解し、研究会参加企業での実践研究による生産革新力の強化を図っている「生産革新研究会：JIT改善部会」では、アドバイザー 香川博昭氏 (香川改善オフィス 代表) から、学んだ「VSM (バリューストリームマップ：モノと情報の流れ図)」をツールに11月例会より研究会参加企業でもあるニンバリ(株) (福知山市) の現場を提供いただき、2ヶ月にわたり実践活動を展開している。

板金工場では、「モノ (材料、仕掛、製品) と情報 (生産情報、生産指示) の流れ」を、機械加工工場では、「生産性向上として機械1人1台持ちを2台持ちに」をテーマに2グループに分かれて3現主義 (現場・現物・現象) を基に現状把握と問題の分析を行った。現状の問題点として、機械加工工場では、レイアウト、台車、加工終了時の対応についての意見、板金工場では、部材の停滞、管理方法、リードタイムについての意見があがり、各グループ活発に意見交換を行いながら実習を行う事で有意義な例会となった。

引き続き、12月例会 (12/21) にて現場改善実習の続きを行う。

—京都発。新産業・新技術の創出をめざして—
京都産学公連携フォーラム2018 ご案内

《京都ビジネス交流フェア2018と同時開催》

と き：2月15日(木)、16日(金)
 ところ：京都パルスプラザ（京都市伏見区竹田鳥羽殿町5）
 主 催：京都工芸繊維大学、京都産業大学、京都大学
 京都府立医科大学、京都府立大学、同志社大学
 立命館大学、龍谷大学、京都府、京都市
 京都商工会議所、京都産学公連携機構
 （公社）京都工業会
 共 催：（公財）京都産業21

【プログラム】

基調講演（2月15日(木) 10:10～12:20）

講演①

「中小ものづくり企業におけるIoT活用によるビジネス改革」
 ～最新技術を中小企業の稼ぐ力に役立てよう～
 （一社）クラウドサービス推進機構 理事長
 （公財）ソフトピアジャパン 理事長
 松島 桂樹 氏

講演②

「【安い・早い・簡単】中小企業でも使える
 常識外れのIoTモニタリング」
 i Smart Technologies 代表取締役社長CEO
 木村 哲也 氏

シーズとの出会い

「数値シミュレーションによる生物流体力学」
 京都工芸繊維大学 福井 智宏 氏
 「画像相関法を用いた触覚センシング手法の提案」
 （地独）京都市産業技術研究所 廣澤 覚 氏
 「京都府立大学における「もの」、「価値」、「こと」づくり」
 京都府立大学 田中 和博 氏
 「性能とコストを両立するレアメタルフリー酸化化物半導体熱電素子」
 龍谷大学 木村 睦 氏
 「電気電子工学を中心としたグリーンイノベーション拠点の整備」
 京都科学技術イノベーション推進協議会 吉本 昌広 氏
 「銅系形状記憶合金構造部材」
 京都大学 荒木 慶一 氏
 「Å(オングストローム)の厚さのシートをつくる! CVD法によるグラフェンの成膜」
 京都府中小企業技術センター 鴨井 督 氏
 「遮光下でMRSAも殺菌する酸化亜鉛セラミックス」
 同志社大学 廣田 健 氏
 「X線位相イメージング技術による非破壊検査の紹介」
 （株）島津製作所 木村 健士 氏
 「健全で効率的な資源循環に関する研究」
 立命館大学 山末 英嗣 氏
 「複数体ロボットを用いた観光案内コンシェルジュの提案」
 京都産業大学 棟方 渚 氏
 「京都企業の産学連携の実態と課題、解決の方向性について」
 京都産学公連携機構 野原 永臣 氏

本会創立60周年記念誌を発行

本会は昭和32年12月17日、京都府機械金属工業連合会として発足し、今年（平成29年）創立60周年を迎えました。この1年行ってまいりました本会創立60周年記念事業の一環として、この度、創立60周年記念誌「新たな飛躍をめざして」を発行いたしました。



【内容】

- ◇ご挨拶 会長 依田 誠
- ◇創立60周年に寄せて（矢嶋英敏・服部重彦本会顧問）
- ◇正副会長座談会「モノづくりと京都工業会の未来展望」
- ◇本会概要紹介（事業体系、運営機構、役員名簿、会員企業一覧）
- ◇年表

新入会員ご紹介

（12月8日、第313回理事会で承認されました。）

正会員

ニンバリ(株)

社長 杉山 俊輔
 〒620-0853 京都府福知山市長田野町2-38
 TEL.0773-27-6301 FAX.0773-27-1292
 業 種：一般機械製造業

賛助会員

キリンビバレッジバリューベンダー(株) 近畿圏支社

支社長 竹田 光昭
 〒530-0011 大阪市北区大深町4-20
 グランフロント大阪タワー A23階
 TEL.06-7730-9199 FAX.06-6371-9022
 業 種：自動販売機にかかる清涼飲料の販売

K.I.G

ゴルフ同好会
 (KIG) だより

▶平成29年度第4回例会（第220回例会）結果

と き：平成29年11月28日(火)
 ところ：瀬田ゴルフ北コース
 参加者：15名（内、シニア6名）

優 勝 堀 英二郎氏（太陽精機(株)）
 準優勝 山本 覚氏（株）乙訓環境エンジ
 B G賞
 3 位 瀧本 正明氏（株）やまとカーボン社

歌舞伎銘菓

夕霧

琴の姿をうつした京名物

井筒ハッ橋



Since 1805 文化二年

井筒ハッ橋本舗 琴姿

祇園本店 京都市東山区川端通四条上ル 北座
TEL 075-531-2121 <http://www.yatsuhashi.co.jp>




せんじゅ
京菓子處
鼓月

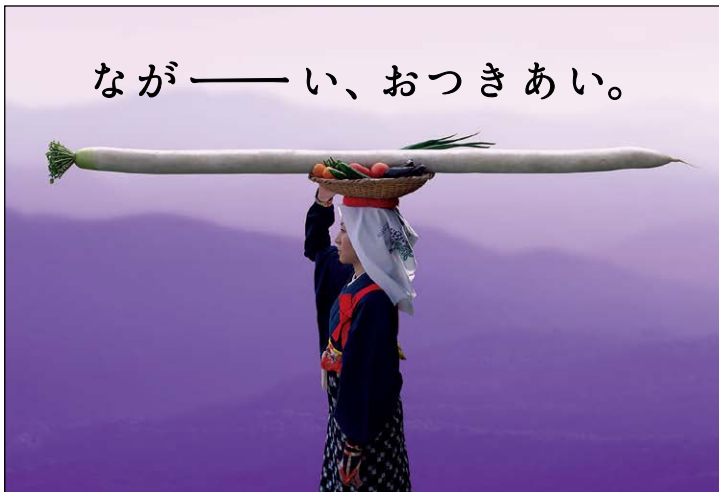
挑み続けて一歩ずつ
美味しさを求めて
これから

京菓子處
本社 京都市伏見区横大路下三栖
電話 075-(623)1651



清酒
月桂冠

お酒は20歳になってから。お酒はおいしく適量を。



ながい、おつきあい。

事業をしっかりサポート ビジネスパートナーを紹介 アジアでのビジネスをサポート

事業融資 **ビジネスマッチング** **貿易・海外取引**

企業の成長戦略をお手伝い 各種金利プラン充実

M&A **住宅ローン**

京都銀行はさまざまなシーンで
皆様を応援します！

飾らない銀行

 **京都銀行**

創業元禄二年
味は伝統



聖護院ハッ橋総本店

京都市左京区聖護院山王町六 電話075(761)5151

★ SAPPORO



ストップ! 未成年飲酒・飲酒運転。妊娠中や授乳期の飲酒はやめましょう。
お酒は楽しく適量で。のんだあとはリサイクル。© サッポロビール株式会社



いつでも、あなたの
ビジネスのそばに。



京都中央信用金庫

本店/京都市下京区四条通烏丸西入ル

TEL 075-223-2525

FAX 0120-201-580 (フリーダイヤル)

URL www.chushin.co.jp



ゆたかなコミュニティを求めて

コミュニティ・バンク 京都信用金庫は
地域の皆様とともに歩んでまいります
これからもよろしくお願ひいたします



<http://www.kyoto-shinkin.co.jp/>

京都工業会「女性活躍推進懇話会」参加企業における女性が輝く☆企業の取り組み事例紹介7

(株GSユアサ
人事部 人材グループ 寺岡 奈央美

株式会社GSユアサ
京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1
社長：村尾 修 設立：2004年
資本金：100億円 従業員数：3,033名
自動車用・産業用各種電池、電源システム、受変電設備、照明機器、紫外線応用機器、特機機器、その他電気機器の製造・販売

■経営トップからの女性活躍推進宣言

GSユアサでは、女性活躍推進を長期的な人材戦略課題と位置付け、2015年から女性活躍推進の取り組みを開始しました。スタート時には、社長からのトップメッセージを公表し、厚生労働省のポジティブ・アクション情報ポータルサイトに公表しました。

宣言します！
GSユアサは、
明るく楽しくポジティブに、女性の活躍のあり方を多様に実現します！

当社では、経営理念である「革新と成長」を実現するために自律型人材の育成に取り組んでいます。

とりわけ女性社員が、3つの「L」の相乗効果で自己成長意欲を高め様々な活躍のあり方を増やすことで一人ひとりが自分の色で輝ける会社を目指します。

株式会社GSユアサ 代表取締役社長 村尾 修

3つの「L」	
Link	社員のつながりを強化して
Life	ライフイベントにはあたたかく
Lead	自律と成長の機会へと導こう

トップメッセージ

■社内での推進活動

弊社では、女性の能力発揮促進のため、①女性社員の意識向上サポート、②能力発揮を促す環境整備、③人事管理上のサポート の3つを柱とした施策に取り組んでいます。その取り組みの一環として、女性が長く働く上で直面する結婚、出産、育児といったライフイベントを迎えた時に、①女性がどう乗り越えるか、②その上司がどのように対応・支援したらよいのか知っておいてもらう為に、女性向けの「みらいBOOK」、上司向けの「ねがいBOOK」の2種類のハンドブックを作成、配布しました。



ハンドブック

そして2016年1月には(株堀場製作所の野崎治子理事を講師にお招きし、「おもしろおかしく働いていますか?」をテーマに女性社員がさらに活躍するために必要な心構え等について講演して頂きました。

又、女性同士の横のつながりを広げるきっかけ作りの場としては、「女性Shine研修」を実施しました。弊社の女性社員は全社員の約1割と少なく、ロールモデルを描きにくいという意見もあります。この研修では、自分自身のことについて向き合い、モチベーションをコントロールしながら仕事に取り組むことの大事さを学び、女

性同士の交流を通じて共に意見を共有し意欲を高めあう機会となりました。

2016年8月からは、女性社員と女性部下を持つ管理職社員を対象とした研修をそれぞれスタートしました。女性社員を対象とした「女性キャリアデザイン研修」では、自らの仕事観や価値観、志向性を客観的に把握し、これから目指したいキャリアビジョンを描くことを目的とし、グループワークや志向性テストなどを通じて、受講者が自分自身への理解を深めました。中長期のキャリアについて、女性はライフイベントに制約を受けがちですが、自分が目指す姿を描いておくと、将来の状況が変化した場合でも積極的でより良い選択ができます。この研修が「なりたいたい自分」の実現に向けたスタートの機会となることを期待しています。



「女性キャリアデザイン研修」の様子

女性部下を持つ管理職社員を対象とした「マネジメント研修」では、女性部下の活躍の機会を増やし、能力を育てるなどのキャリア開発支援を行なうことを目的としました。同じ女性でも、その人が持つ価値観や仕事観はさまざまであり、それぞれに合った支援方法が必要です。この研修後の事後課題として女性部下との面談を設定しました。部下の思いを聞き今後について一緒に考えるコミュニケーションの機会を増やして頂き、上司として部下として、まずお互いの理解を高めることを期待しています。

■今後の取り組み

弊社の社員全体に占める女性の割合は12%であり、製造業平均と比較しても女性社員数、女性管理職数共に未だ少ない状況にあります。その中で女性の採用数拡大にも取り組んでおり、今後女性がより働きやすく、より活躍できる職場づくりを推進していくことが必要です。より働きやすい環境づくりのために、2017年9月より「時間単位休暇制度」を導入しました。加えて、年休取得促進を進めており、一般社員には年間最低10日間の年休取得を義務化しています。

弊社の経営理念である「革新と成長」を実現するために、男女問わず活躍の場を増やしサポートすることで、自律型人材を育成し、社員一人ひとりがイキイキとやりがいを持って働ける環境を整えていきます。



2017年6月にくるみん認定を受けました。

京都工業会 ニュース No.393

2017年12月28日発行

発行 公益社団法人 京都工業会

〒615-0801 京都市右京区西京極豆田町2
TEL.075(313)0751 FAX.075(313)0755
URL : <http://www.kyokogyo.or.jp>
E-mail : info@kyokogyo.or.jp